

中学2年生は夏休みにボランティア活動しており、

それに向けて講演会が行われました

6月26日（金）に大平晃先生のボランティア講演会が行われました。先生は洗足学園を退職後、故郷の長岡市に移り住み、様々なボランティア活動を精力的にこなしていらっしゃいます。転居後しばらくはゆっくりと過ごしたいと考えていた先生に、ボランティア活動への道を開いたのは奥様だったそうです。現在では、長岡市在住の外国人に日本語を教えたり、新潟県中越地震の影響で市に寄贈された貴重な古文書の整理と保存に当たったりと、幅広く活動していらっしゃいます。先生のお話を通じて、生徒たちは相手の立場を慮ることの大切さや、共に活動する仲間のありがたみ、チャレンジ精神の重要性を学んだようです。



以下、生徒たちの感想をご紹介します。

～生徒たちの感想より～

印象に残っている言葉

『やらずに後悔するなら、やって後悔した方がいい』

私は、ついこの間までボランティアは人のために自分を犠牲にして行うものだと思っていました。でも、学年集会や大平先生のお話を通して、そうではないことが分かりました。ボランティアは、自らも生きがいを感じ、人と接することで視野を広げることができるのだと知りました。

また、私が最も印象に残ったのは田部さんの質問に対する大平先生の「やらずに後悔するなら、やって後悔した方がいい」というお言葉です。私は日頃、やるかやらないか迷ったとき、「やって後悔するならいっそのこと何もやらない方が楽だから」と楽な方へと流されてしまっていました。ですが、これからは楽だからといって何もしないのではなく、後悔するかもしれないとしてもやってみるという思いで、少しずつ行動できるようにしていこうと思います。

(A組 N.H.)



印象に残っている言葉

『ボランティアをすることで自分の存在を認識できる』

大平先生の話聞くまでは、正直「学校の宿題だから…」というようにボランティアのことを考えていました。学年団の先生の話でもやはり“人の役に立つ”というものであるという認識しかありませんでした。しかし、今回話を聞いて、人のためだけでなく自分も成長できる機会なのだなと思いました。確かにゴミひろいも、そこに住んでいる人もうれしいし、自分もスッキリした気持ちになれると思います。

大平先生はたくさんのボランティアに参加することで、自分の経験値をあげていらっしゃると思います。私もたくさんのボランティアを経験し、視野を広げられるように頑張りたいと思います。今回大平先生の話聞いて、

ボランティアに対する考えが変わったと思うので、有意義な講演会だったと思います。夏休みのボランティアで少しでも自分が成長できるといいです。

(B組 N.T.)



印象に残っている言葉
『自分でも人助けをできる』

大平先生の講演はとても感動的でした。最初は奥様に誘われて参加したにも関わらず、今ではご自分から進んで人助けをしていることがすごいと思いました。私はまだ中学生なので、人を助けることなどできないと思っていましたが、先生の「自分でも人助けをできる」という言葉で、誰でも人助けができるのだと思いました。例えば、電車で席を譲ることも一種の人助けだと、先生はおっしゃっていました。今年の夏、私達はボランティアを通じて人助けをします。初めてのことで緊張するけれど、一生懸命頑張りたいと思いました。

(C組 R.T.)



印象に残っている言葉
『私の知っていることやできることは少ないし、何も経験はないけれど、少しでもその人の助けになれば良い』

この講演を聞くまでは「なぜボランティアなんかやらなきゃいけないんだろう？強制だったらボランティアではないから正直なんの意味もない」という風に思っていたけれど、講演を聞いて、「挑戦して見なければ何も始まらない」ということを改めて実感しました。実際にボランティア活動に参加した後、どう思うかはわからないけれど、まずは自分の力を全て出し切って活動に取り組みたいです。また、ボランティアはただなんとなく適当にするものではなく、自分の気持ちや周りの雰囲気意識すれば、その活動を通して自分の中で様々な変化があるのでと思います。今回の講演会のおかげでボランティアについて深く考えることができ、その大切さにも気づかされました。

(D組 M.Y.)



印象に残っている言葉
『相手のことを考えようという気持ち。経験がなくてもできることがあるという気持ち。できる範囲で一所懸命やろうという気持ちをもつ』

私はボランティア活動をやるにおいて、どのような気持ちでやればいいのかというのがとても印象に残っています。私は正直、洗足祭のためにボランティアをするという気持ちで、めんどろだなど思うところもあります。でも、大平先生がおっしゃっていたように、自手の求めていることや相手の心に寄り添おうとする気持ち、経験がなくても自分にできることはあるという気持ち、できる範囲で一所懸命にやろうという気持ちをもって、ボランティア活動をやろうと思いました。私は今までボランティア活動をした経験が無いため、ボランティア活動とはどのようなものかわからなくて少し心配です。でも、ボランティア活動を行えば、それに対する意識が変わると思います。なので、夏休みのボランティアでは、この3つの気持ちを持ち、やりがいのある活動にしていきたいです。

(E組 K.M.)



印象に残っている言葉

『何もしないよりも何かして失敗したほうがいい』

私は今まで、ボランティアを自分からやってみようという気になれず、「嫌だなー。」と思っていたのですが、大平先生は教師を終えてから、積極的にいろいろなボランティアをやり、とても楽しそうなのに加え、地域にも貢献していらしてすごいと思いました。それだけではなく、ボランティア活動をする際に心得ることがたくさんあり、全力でボランティアに取り組んでいる話を聞いて驚きました。私も大平先生がおっしゃっていたことを参考にして、ボランティアをやりたいです。

(F組 M.M.)